

ニュース・子供ニュース，録音ニュース，ラジオタ
刊，ニュース解説，天気予報など。

B：スポーツ

スポーツニュース，スポーツ教室，野球その他のス
ポーツ実況放送など。

C：教育

教育，教養，社会に関するトーク番組，ラジオ体操“
おやおやなあに”，“私たちの言葉”など。

D：童劇 連劇，連活劇。

E：音楽

古典，準古典音楽，歌唱，童謡，歌謡曲，軽音楽，ミ
ュージカルショーなど。

F：クイズ

G：その他

5表 分類項目別の接触の程度

地域類型	分類記号						
	A	B	C	D	E	F	G
市街地域	44.2	7.4	20.1	74.7	19.9	0.3	26.4
農 業	42.5	8.2	16.7	70.5	20.6	1.0	22.5
山 村	44.2	5.3	12.6	73.7	19.5	0.0	12.1
鉱 業	48.1	7.6	14.1	61.6	30.3	2.7	25.9
平 均	47.0	7.6	17.5	71.7	20.9	0.8	23.5

以上の生活内容の状況で，地域別に直接国語・算数に
プラスになる面と，然らざる面とを比較考察すると，先
の学力の地域差は，そのまま生活の地域差と一致するよ
うに思われる。詳細については報告書を見られたい。

D 高等学校入学志願者選抜のための学力検査結果の調 査

A，調査の目的

昭和33年度卒業で，34年度の高校入学志願者選抜のた
めの学力検査を受験した者の，学力検査の結果から。

- (1) 志願者を選抜するという観点で，学力検査問題の妥
当性を検討する。
- (2) 卒業後の状況調査の結果を考慮して，受験者集団の
学力から卒業生集団の学力を推測して，出張所相互の相
対評価を行う。
- (3) 各出張所について教科相互及び教科内の分析された
領域相互の学力の歪みを明らかにする。
- (4) 出張所相互の学力差の要因を教員構成におき，これ
を教員調査の結果から検討する。
ことを目的として調査を行う。

B，調査の方法

調査対象は，33年度卒業の県立高等学校受験者全員と
した。各高校へは，志願者を出身中学校の所属する出張
所別に別にして，教科別小問の正答状況の報告を依頼し
た。前述の操作が，高校の事務を膨大ならしめたこと
から，高校教員組合が調査の中止を申し入れてきた。然
し，本年度の目的を達成する上に，この形式で調査する

ことが是非必要であり，又このような調査が，毎年続け
られるものでないことを話し，了承を得て協力を願うこ
とができた。

C，結果の概要

a，選抜の目的から見た学力検査問題の妥当性

34年度の通常課程への競争率—合格者の受験者に対
する百分比—と，選抜のための学力検査問題の小問正
答率—正答者の受験者に対する比率—とを比較考察す
るとき，県下の高校の選抜の目的をもった学力検査問題
としては，妥当のものとはいいい得られない。

望ましいあり方は，競争率の分布状況からは，各教科
の正答率は65%位を中心として，対称的に配列されて
いることである。このような見地から，今回の学力検査
問題は難かしすぎたというべきであるが，然し，問題
そのものを検討すると，問題が難かしすぎたというより
は，むしろテスト時間の不足によるものと思われべき
ではないかと思われる。

従って次年度は，本年度と同じ規準に立って問題を作
成すると共に，テスト時間を増す方向に努力すべきであ
る。

b，教科相互の歪み

志願者の学力検査の上に表われた教科相互の学力の歪
みは，そのまま卒業生全体の姿であり，又現在学校にい
る生徒の将来の姿であるとの前提条件の下に，出張所を
単位としたZスコアによる相対評価を試みた。各教科
のZスコアによる得点の散らばりが，

- (1) スコアの1単位の中の間にあるもの—教科相互の
学力の歪みの少ないもの—は伊達，石川，田村の3出
張所。
- (2) スコアの2単位以上の中をもつもの—教科相互の
学力の歪みの大きいもの—は両沼出張所。
- (3) スコアの単位の1倍以上2倍以下のもの—前記(1)
(2)の中間に位するもの—は，その中の小さいものから，
順次大きいものに向って双葉，北会津，石城，信夫，相
馬，安積，耶麻，東白川，安達，西白河，南会津，岩瀬
の12出張所である。

c，教科内での歪み

学力検査問題の作成にあたっては，学力を経験領域と
能力の概念との2方面から分析して枠組を作り，ペー
パーテストの限界内で，広く各枠の中に小問を配置するよ
うに努力されている。

よってこの各枠組内の成績をZスコアによって表わ
し，教科内の歪みを明らかにすることによって，教科指
導の方向づけの手がかりをあたえることにした。

一報告書を参照されたい—

d，教員構成

教科相互の歪みの要因に教員構成を取り上げ，これに
検討を試みた。その結果の概要は次のようである。

- (1) 仮・臨免所有者の占める比率では最低が信夫の5.7
%，最高が田村の17.5%でこの間に10%以上の開きが
ある。